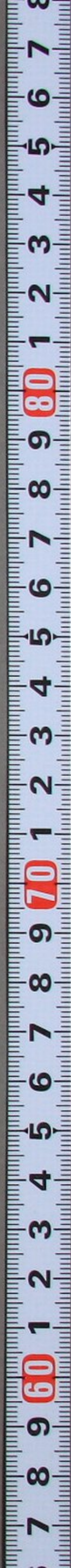




湖月抄





開屋

并二卷名詞よひて号と河

とらやうりこころ

かゝる註とて「ともとあり詞之」細あひさりの開やいりる也歌約

とありやの字ハ助のや乃文字なり不可為卷名源氏若夫ハ

兼の九月乃も也みまづの末ハ八卷十一月なり

のまじりて書ハ同年ハ卯月の比まてのまじり也依て

此巻終ハ花巻ハ皇の并ニハ終も横の并也師蓬生の

巻ハ依の夫ハ兼乃卯月比のまありて末ハ二とせり

此古まよわづめ終ふとわれハ横皇の并也終るハ兼巻ハ

夫ハ兼の九月もそのまありハ横の并なり

此のころハひらきぬて

細依氏流ハ越後兼前

年兼陸はあてり

と海の内ハひらきぬ

血兼陸ハと海の内ハひらきぬ

のまじりハひらきぬ

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

細伊子の怪異ハ上洛とて

又兼陸ハと海の内ハひらきぬ

のまじりハひらきぬ

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり

ハと兼陸のまじり













